

保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

目 的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

成 果

1. ミャンマー バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁及び壁画の保存に向けた調査と修復方法の研究
当初計画では、2020（令和2）年7月と2021（令和3）年1月に同遺跡 Me-taw-ya 寺院及び Lokahteikpan 寺院での現地専門家を対象とした人材育成事業ならびに保存修復事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から当初計画を変更し、リモート会議を通じた維持管理に係る技術指導を行った。（オンライン会議：2020（令和2）年9月18日）
2. 旧和宇慶家墓の保存に向けた石垣市教育委員会文化財課及び外部専門家との共同研究（2020（令和2）年10月1日）
3. イタリア ウルビーノ大学との壁画及び石造文化財の保存修復に係る共同研究に向けた合同会議（オンライン会議：2021（令和3）年2月28日）

論 文・前川佳文、ダニエラ・マリア・マーフィーほか：「ミャンマー共和国バガン遺跡ロカティーパン寺院壁画の保存修復と国際協力事業」『保存科学』60 pp.99-110 21.3

刊行物・Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205a Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar 2016–2020, 令和2年度成果報告書 東京文化財研究所 197p 21.3

・Lokahteikpan Wall Painting Project, Pagoda 1580 Capacity Building Report, 令和2年度成果報告書 東京文化財研究所 177p 21.3

・旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究 令和2年度成果報告書 東京文化財研究所 50p 21.3

研究組織 ○加藤雅人、前川佳文、牛窪彩絢(以上、文化遺産国際協力センター)、小峰幸夫(保存科学研究センター)